

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

広島市民病院の 経営形態が 変わりました



地方独立行政法人
広島市立病院機構理事長 影本 正之

平成26年4月1日より広島市民病院は、これまでの広島市による運営から、新しく設立された地方独立行政法人である広島市立病院機構による運営に移行しました。

広島市立病院機構は、広島市民病院とともに広島市が運営していた安佐市民病院、舟入市民病院(舟入病院から名称変更)、リハビリテーション病院の4病院で構成されています。

地方独立行政法人への移行による病院のメリットのひとつが、自治体である広島市の職員定数枠に縛られることなく職員の増員が可能になったことです。病院という心や体に悩みを持つ人が訪れる場所では、機械化、ICT化が進んだ現代においても、多くの人間の力がなければ十分な対応はできません。早速、今年度から看護師を中心に医師、医療技術職など多くの人を採用して増員をしましたので、職員にとって働きやすい職場環境への改善になるとともに、来院

される皆様には、これまで以上に良質な診療やサービスを提供できるものと考えています。

新しい経営形態となって、職員の増員にみられるように医療の世界の変化に柔軟に対応する運営が可能になりました。広島市民病院には、広島市立病院機構の一員として、これまでと同様に広島市民の生命と健康を守るという大きな使命があります。他の3病院と連携しながら、さらに心のこもった信頼される医療の実践に努めてまいりますので、皆様には今後もご支援とご協力をお願いいたします。

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成を行います。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

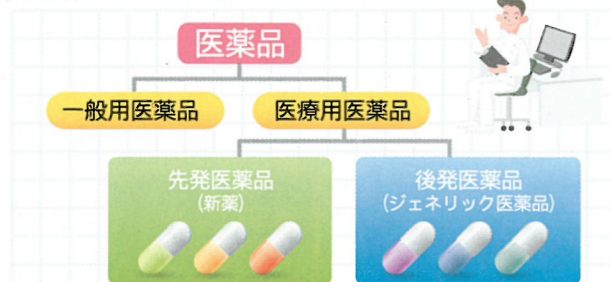
これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのために、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

ジェネリック医薬品って どことなくすり？

薬剤部 薬剤部長
浜田 真二



当院でも多くのジェネリック医薬品が採用されたり、処方されるようになりました(当院で4月に採用になったジェネリック医薬品数:内用 42品目、外用 1品目、注射 76品目の合計119品目)。今回は、ジェネリック医薬品について説明します。医薬品には、一般の薬局・薬店で販売されている「一般医薬品」と医療機関で医師から処方される「医療用医薬品」があります。さらに「医療用医薬品」は先発医薬品と後発医薬品に分かれていて、後発医薬品はジェネリック医薬品と言われています。



先発医薬品である新薬は、開発した製薬会社によって独占的に製造・販売できる特許期間があります。しかし、新薬の特許期間が終わると厚生労働省の承認を得れば、他の製薬会社でも製造・販売できるようになります。新薬の特許期間満了後に販売される医薬品がジェネリック医薬品です。医薬品には製薬会社がつけた「商品名」(Brand name) と有効成分名である「一般名」(Generic name) の2つの名前があります。ジェネリックとは英語で「一般的な」という意味ですが、欧米では後発医薬品は商品名でなく薬の有効成分である「一般名」で処方されることが多いためジェネリック医薬品と呼ばれています。日本ではジェネリック医薬品の普及は大幅に遅れているのが現状です。

□ 新薬の特許有効期間とジェネリック医薬品



ジェネリック医薬品は有効成分や効き目は変わらず、お薬代が安くなるのが最大の利点です。種類によって違いますが、先発医薬品の3割～5割以上安くなるお薬もあり、

患者さんの負担も軽くなります。先発医薬品の研究開発には膨大な時間・労力・費用が必要で、1つの新薬を開発するのに15～20年、費用は数百億円かかります。一方ジェネリック医薬品はすでに医薬品として販売されているお薬の特許切れ後に製造するので研究・開発費用が大幅に削減でき価格が安くできるのです。

□ 新薬とジェネリック医薬品の開発



ジェネリック医薬品は先発医薬品と同じように安全な薬です。ジェネリック医薬品の有効成分は長い間使われてきた先発医薬品と同じで、開発段階から厚生労働省の定めた様々な試験を行い、先発品と同レベルです。厳しい規制を守って開発・製造・販売されるため製造管理や品質管理は徹底的に行われます。



現在、ジェネリック医薬品は高血圧、糖尿病、悪性腫瘍をはじめ様々な分野・症状にわたって販売されています。実際に患者さんが使っているお薬をジェネリック医薬品に変更するには医師や薬剤師にジェネリック医薬品に変更できるかを御相談ください。ジェネリック医薬品は長く使われているお薬ですし、医療費の自己負担分を軽減できます。このように新薬とジェネリック医薬品を上手に使い分けていくことが大切です。当院でも公正で様々な選定基準の下で今後も患者さんに服用し易いなどのメリットのあるジェネリック医薬品の採用を増やしていく予定です。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科/火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので
事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,610円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

医療情報管理室の紹介

広島市民病院って、どんな病院でしょう？
そんな疑問や、統計にお応えし、病院を支えているのが「医療情報室」です。

Q 広島市民病院ではどんな病気の患者さんを多く診ているの？

A 医療情報室では入院患者さんがどんな病気にかかり、どんな治療をうけているのかなどを集計し、より良い治療をするための情報を提供しています。(平成25年度退院患者さんの疾病集計上位10位を示しています。)

疾患名	退院件数	疾患名	退院件数
狭心症	1,379	自然分娩	389
肺がん	694	大腸ポリープ	369
胃がん	594	大動脈瘤及び解離	362
乳がん	468	うっ血性心不全など	301
肝がん	405	膀胱がん	261

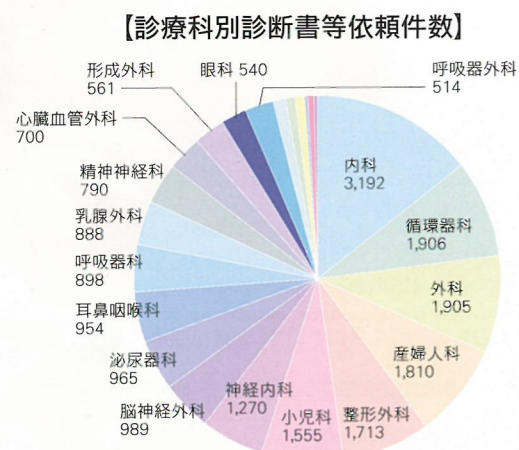
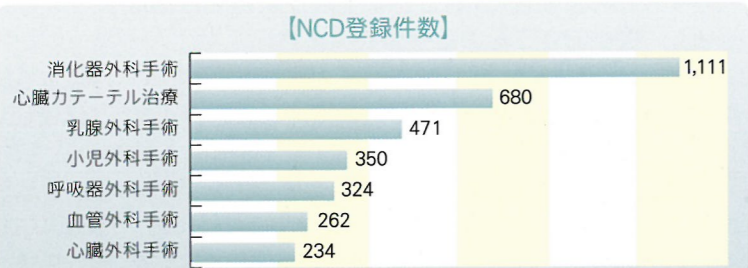
Q 広島市民病院では、何人のがん患者さんの治療をしているの？

A 広島市民病院は平成18年8月にがん診療連携拠点病院に指定されました。医療情報室では、国のがん対策やがんの治療成績向上のために、平成28年から法制化される「がん登録」を以前から担当しています。平成24年には2,573名の患者さんが「がん」と診断され、治療(初回治療)をうけられました。



Q 広島市民病院にはたくさんの患者さんがいて、忙しいのですが、職員は勉強する時間はあるんですか？先生たちは診断書などたくさんの書類を受けているようですが、どのくらい作成しているんですか？

A はい。医師や職員は、患者さんにより良い治療を受けていただくよう、常に研鑽しています。国内学会、国際学会で認められ、社会に貢献しています。医療情報室では、その活動を支えるため、病院のビッグデータをもとに、NCD(National Clinical Database)の登録や診断書作成の補助のため、必要な情報を提供しています。平成25年はNCDの登録を3,432件、診断書などの書類を、約22,000件作成しています。書類はお待たせすることもあります。できるだけ早く患者さんにお渡しできるように、努めています。



緩和ケア科 緩和ケアチーム



「緩和ケア」という言葉を聞いたことがある方は多いと思いますが、どのようなイメージを持っておられるでしょうか？
当院は「がん診療連携拠点病院」に指定され多くのがん患者さんを治療しています。手術や抗がん剤、放射線治療など腫瘍そのものに対する治療が主体となりますが、それと同時に患者さんの「つらさ」を和らげることも大切な治療の一部です。「緩和ケア」というのはこの「つらさ」を和らげることを目標にする医療のことです。

当院には「緩和ケアチーム」があって、患者さんの「つらさ」を和らげるために主治医と協力する形で活動しています。緩和ケアチームは、痛みの治療を専門とする医師、精神的な苦痛の治療を専門とする医師、がん看護の専門的な資格を持つ看護師、医療用麻薬や制吐剤そして抗がん剤などの薬剤に専門的な知識を持つ薬剤師、社会的な支援を担当するソーシャルワーカー、お話を聞きながら心理的な支援を行う臨床心理士など、専門的な技能を持つ26名からなる多職種合同チームとなっています。主治医や担当看護師、患者さんご本人あるいはご家族からの依頼に応じて直接診療を行ったり、医師や病棟看護師にアドバイスをしたり、様々な形で対応しています。

現在、国も「がんと診断されたときからの緩和ケア」を掲げて「早期からの緩和ケア」の普及に努めています。実際に早期から医療用麻薬を使って痛みの治療を行っても余命に悪影響を与えないことは既にデータとして示されています。私たちは、がん治療を行っておられる患者さんも含めて全ての患者さんが苦痛なく過ごすべきだと考えています。緩和ケアチームは、そのためにできる限りのお手伝いをしています。

【痛みと医療用麻薬について】

がん治療中の1/3の患者さんが痛みを経験すると言われています。がんの痛みの治療の主役は医療用麻薬です。最も代表的な「モルヒネ」を始め、「フェンタニルの貼付剤・舌下錠」、「オキシコドンの内服や注射剤」、そして昨年から「メサドン」が発売され、日本でも多くの医療用麻薬が使えるようになってきました。がんの痛みはこれらの医療用麻薬を上手に使うことで80%以上はコントロール可能といわれています。私たちは普段診療して「痛みは薬でおさえるよりも我慢する方が良い」と思っておられる方が意外に多いように感じています。でもそれは間違っています！がんを治療するのと同様、痛みもしっかり治療する方が良いのです。

【気持ちのつらさや不眠について】

がんのような病気になると、気持ちが辛い、眠れないなど、さまざまな精神的な苦痛を経験されることと思います。このような苦痛に対しては必要に応じて専門看護師や臨床心理士がカウンセリングを行ったり、精神科医が診療したりすることで対応しています。今感じておられる苦痛はこれらの支援で軽くすることが可能かもしれません。

【勉強会や研修会】

「緩和ケア」は緩和ケアチームだけが提供するものではありません。全ての医療者が提供する「緩和ケア」の質の向上も私たちの仕事です。そのために医療者対象の研修会を開催しています。

がん看護専門担当

患者さん・ご家族に最も近い存在でありたい。

がん看護専門看護師は、がんと診断された時から医師と協働し、患者さん、ご家族に質の高い看護を提供する役割を担っています。

患者さん、ご家族は、治療を続ける中で、医師から病気や治療について専門的な説明を聞いたり、様々な症状への対処が必要になったり、今後どのように過ごしていくかなど難しい選択を迫られます。そうした際、患者さんががん向き合えるように、患者さん、ご家族のつらさに寄り添い、共に考えていける存在であることを心がけ活動しています。患者さん、ご家族が大切にされている事柄をお聞きし、納得して治療が受けることができ、自分らしく過ごしていただけるよう支援することが私の役割だと考えています。

入院・通院患者さんと面談をさせて頂き、また、緩和ケアチームの一員として、医師、看護師、薬剤師、MSWなど多職種と連携を図りながらケアにあたっています。がん看護専門看護師の活動は、まだ発展途上です。これからも、患者さん、ご家族の最も近い存在になれるよう努力していきます。



がん看護専門看護師
Certified Nurse Specialist in
cancer nursing

仁井山 由香